特集②

「日本自然保護大賞 2025」受賞
皿池湿原 国内最高峰

動植物 570 種生息、うち希少種 74 種
兵庫県内 屈指の生物多様性

皿池湿原は、テクノパークにある 10 の湿原からなる湿原群。平成 29 年から市が中心となり、「兵庫県立人と自然の博物館」などの専門機関、市民や事業者などからなるボランティア「皿池湿原の守り人 (通称：守り人)」とともに保全活動に取り組んでいます。

かつては、テクノパークの開発予定地内に位置していましたが、専門家らの調査により、生物多様性を維持するうえで重要であることが判明し、市は風致公園として保全することを決定しました。現在は、兵庫県および三田市の天然記念物に指定されており、普段は環境保全のため、立ち入りを制限していますが、年 2 回の見学会や大学生のフィールドワークの場として活用しています。

そんな皿池湿原が令和 7 年度、公益財団法人日本自然保護協会が主催する「日本自然保護大賞 2025(保護実践部門)」を受賞しました。

今回の特集は、受賞へ導いた関係者や皿池湿原に生息する動植物などを紹介します。

問い合わせ＝里山保全課 (559-5226 FAX 556-8153)

INTERVIEW
「守り人」が守る多様な生態系
① MAIN CHARACTER

「守り人」の主な活動内容

守り人は平成 29 年に発足し、活動開始から 9 年が経過。受賞の裏には、守り人による不断の手入れがありました。守り人に加入しているベテラン・学生・事業者に、活動への想いを聞きました。

活動歴6年の守り人
吉田 滋弘 さん

活動を初めて6年、私にとって皿池湿原は「パラダイス」です。行政や専門家と連携した「生き物優先」の保全活動にやりがいを感じています。

活動は、過酷な土木作業など苦労が9割ですが、希少な動植物が、整備した場所に姿を現したときの感動など、たった1割の喜びで今までの苦労が帳消しになり、季節の変化や発見が継続の原動力です。

今回の受賞は、多様な主体が連携したことが評価された結果だと思っています。

今後は知識を継承し、三田の誇りを次世代へ繋ぐことを目標に活動を続けます。

動植物の調査

神戸大学大学院
岡田 悠雅 さん

大学の先生からの紹介で活動に参加。やる気に満ち溢れ草刈りをされている守り人の姿に「こんなに頑張っている人がいるんだ」と感銘を受け加入を決意しました。

活動の主なモチベーションは、守り人の皆さんと会うこと。若い私にも仲間として対等に接してくれ、木の切り方や生物の生息地など多くを教えてもらっています。

今後の目標は、「この場所にはこんな生き物がいる」など、ベテラン守り人が長年蓄えた知識をデータベース化すること。知識を共有できれば、活動の幅がさらに広がると考えています。

里山林の整備

三田工場が皿池湿原から近く、活動には有志5人～8人が継続的に参加しています。

三田工場はエコアクション21の認証を取得しており、活動で得た環境意識を日々の製造現場にも反映。植物油インクの採用や廃棄物の徹底分別など、カレンダー作りを通じた環境負荷低減に努めています。

受賞を聞いたときは「県内だけじゃなく全国レベルで認められている活動のメンバーの一員なんだ」と大きな誇りを感じました。

毎年、守り人の皆さんへ贈っている「オリジナル卓上カレンダー」も、今年は受賞を記念した特別仕様にし、保全活動をさらに盛り上げていきたいです。

▲エコアクション 21

新日本カレンダー株式会社
藤原 航 さん

オリジナル卓上カレンダー

※非売品

皿池湿原 に生息する動植物

皿池湿原は兵庫県・三田市指定の天然記念物で、570 種もの動植物が息づき、うち 74 種が希少種という、県内屈指の生物多様性が保たれています。湿原を彩る動植物を一部紹介します。

実物大！

ハッチョウトンボ

体長 15mm ～ 20mm 程度で 1 円玉に乗るほどの、日本最小・世界最小級のトンボです。

トキソウ

5 月～ 7 月に淡いピンク色の花を咲かせるラン科の多年草です。日本では北海道から九州の湿原に自生し、花が鳥のトキの羽の色に似ていることから名付けられました。環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されています。

サギソウ

日本各地の湿地に自生するラン科の多年草で、7 月～ 8 月頃に鳥の白鷺（しらさぎ）が羽を広げたような純白の花を咲かせます。環境省のレッドリストで準絶滅危惧に指定されています。

実物大！

ヒメタイコウチ

体長約 2cm の暗褐色で平たい、小型の水生カメムシ。呼吸管が短く、浅い湧水地や湿地の泥・落ち葉の間に潜みます。飛翔能力はなく移動能力が低いため、分布域が非常に狭く、環境悪化により各地で絶滅が危惧されています。

モウセンゴケ

葉の腺毛から粘液を出し、小昆虫を捕らえて栄養にする食虫植物の多年草です。日当たりの良い湿地に自生し、名前にコケとありますが、コケではなく種子植物です。

セトウチサンショウウオ

体長約 7 cm ～ 12cm、夜行性で落ち葉の下などに潜み、冬～春に水田の溝や湿地にコイル状の卵嚢（らんのう）(下写真) を産むのが特徴。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

12 月 19 日に行われた授賞式

なぜ評価されたのか

② REASON

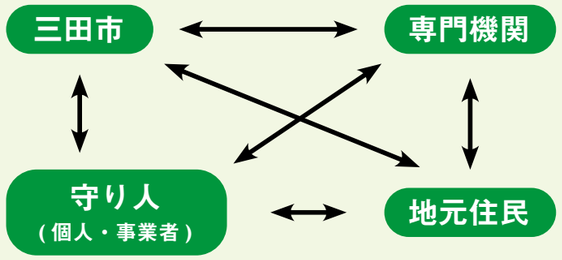
日本自然保護大賞とは

公益財団法人日本自然保護協会が、自然や生き物を保全する活動を表彰し、その素晴らしさを広める取り組みです。

地域性、継続性、先進性、協働性の４つの観点から活動を評価します。

これにより、ＳＤＧｓの達成や自然とともに生きる未来を目指し、日本の自然保護を推進する力を育みます。

皿池湿原の保全活動推進体制



専門機関やボランティアなどと連携した保全活動を推進し、環境学習や研究の場として活用しながら貴重な生態系を次世代へ繋ぐ取り組みが高く評価されました。

皿池湿原の保全・活用

９年間の活動成果

動植物 43 種増↑

希少種　9 種増↑

皿池湿原・守り人を導く

INTERVIEW

③ GUIDE

ひょうご環境創造協会
日野（ひの）敦郎（あつろう）さん

活動で大切にしていることは「安全」と「楽しさ」の両立です。責任や成果だけを求められるボランティア活動の継続は難しく、楽しさがあるから人が集い、活動は続きます。

最近は、ベテランの守り人が新人に技術を教える光景が日常となり、ともに成長する文化が根付いてきました。

今回の受賞は、こうした私たちの歩みが間違っていなかったと認められた証であると同時に、全国から注目される緊張感もあります。

人と自然の博物館
石田（いしだ）弘明（ひろあき）さん

皿池湿原の状況を定期的に確認し、活動への助言を行っています。

かつて放置され森林化していた湿原は、守り人さんの手入れのおかげで光が入り、動植物が格段に増え、蘇りました。

現在は、野生動物による食害などが課題。皿池湿原にいる生物の多くが絶滅危惧種や珍しい生き物なので、保全が急務となっています。

三田市が誇るこの自然を市民に広く知ってもらい、まちへの誇りを育んでほしいです。

行政だけで保全活動を効率的・効果的に行うことには限界があります。そこで、専門的な知識を有している、ひょうご環境創造協会や人と自然の博物館などと連携して保全の計画をたて、守り人や地元住民の皆さんとともに保全活動を行っています。

「見る」から「関わる」へ

④ RELATIONSHIP

限られたタイミングでしか入ることができない皿池湿原に足を踏み入れてみませんか。

6/27㊏ 7/11㊏ 皿池湿原 守り人養成講座（全2回）

皿池湿原の希少な動植物を守るボランティアの養成講座です。

時　間　1日目：9時～12時、2日目：9時15分～12時

集合場所　JR相野駅前（皿池湿原まで往復5kmほど歩きます）

定　員　20人（多数の場合抽選。小学生以下は保護者同伴）

申し込み　6月4日までに、電話またはオンラインフォーム

6/19㊎ 6/20㊏ ハッチョウトンボとトキソウの観察会

普段非開放の皿池湿原の希少な動植物と触れ合う観察会です。受賞を記念して今年は2日間開催！

時　間　1部：9時～11時、2部：12時45分～14時45分

集合場所　JR相野駅前（皿池湿原まで往復5kmほど歩きます）

定　員　各30人（多数の場合抽選。小学生以下は保護者同伴）

申し込み　5月22日までに、電話またはオンラインフォーム

随時 緑の少年団員になろう

皿池湿原などでの環境学習や自然観察、自然とのふれあい体験など、生物多様性の学習活動を行います。

対　象　市内在学の小学生

活動期間　毎年、4月～翌年2月までの約1年間（月1回程度、主に土・日曜に活動）

年会費　700円（行事内容により別途参加費が必要な場合あり）

申し込み　電話またはオンラインフォーム

問い合わせ＝里山保全課
（559-5226 FAX 556-8153）

三田の宝を、未来へ

⑤ Connecting Futures

今回の特集で初めて「皿池湿原」を知った人も多いと思います。日本自然保護大賞の受賞は三田市の大きな誇りです。

約9年間活動を続けてこられたボランティア組織「皿池湿原の守り人」の皆様、専門的な知見でご指導いただいた関係機関の皆様、そして周辺環境の維持に協力的な地域の皆様に心より感謝申し上げます。

今回の受賞を励みに、今後も多様な主体と連携しながら保全活動を推進し、このすばらしい「宝」を次世代のこどもたちへ繋いでいけるよう取り組んでいきます。

里山保全課 三谷（みたに） 豊（ゆたか）